

陽の里

発行 平成29年1月1日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
TEL (0585) 45-5545(代)
URL <http://www.sun-village.jp/>

No.130

テーマ 質を保つこととは…



▶サンビレッジ新生苑より朝日を望む

新年あけまして

おめでとーございます



社会福祉法人 新生会

名誉理事長

石原美智子

お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

「社会福祉法人新生会」は41年目を迎えます。この間社会も人も大きく変わりました。すべて税金で賄っていた措置の時代から、国民が一部を負担し、選択の自由を保障された介護保険に変わりました。

団塊の世代と言われてきた人々が、今までは親の問題でしたが、財源も人手も減少するこの時代に、自らの老後を想定し、ただ権利を要求するだけではなく、誰に己の身を委ねるのかを真剣に問わなければならなくなりました。

かつて、家庭の中で人生を終わっていく時代には、子供たちが人生の何たるかを自然に学んでいきましたが、死が病院の中に移ってからは、死を受け入れることが困難な社会になりました。

介護保険が出来て、ますます高齢者と次世代の関係が希薄にならないように、そして誰かだけが重い荷物を引き受けるのではなく、家族も他の介護者もお任せ関係にならず、共に力を合わせて支える社会を創らなければなりません。

今年もみんなで力を合わせてお互いの人生がより豊かであることを願いながら新年のご挨拶いたします。

事例報告会

実行委員長 佐野 祐子

平成28年9月27日に「社会福祉法人新生会事例報告会」が大垣市情報工房スインクホールで開催されました。多くの方々に実践報告を聴いて頂く為に、これまでの夜の開催を改め終日開催とし、業務の合間をぬつてのスポット参加もできるようになりました。また事例報告会と合わせて行われた永年勤続表彰式では、今村理事長よりお一人ずつに賞状が手渡されました。表彰されました職員の皆様、本当におめでとうございます。

今年度事例報告会のテーマは、27年度法人テーマ「軌跡を振り返る」でした。新生会は今年で41年を迎えました。これまで「質とは何か」「福祉とは何か」「ケアとは…」、専門性とは「何を求め、歩み続けてきました。その歩みを新生会各部門から選ばれた全8事例の他、招待事例（外部事業所からの発表）4事例の実践



▲名誉理事長の話に耳を傾ける参加者

報告を通して参加者と共に学び合い、とても有意義な時間となりました。遠方から参加頂いた他法人の皆様の報告では、質にこだわる強い思いや法人の取り組みの奥深さを知り、とても刺激を頂きました。全国の中に新生会と同じように質を求め、歩み続けている法人と交流ができる事は本当に幸せな事です。これからも交流を深め、刺激し合いながら学び合っていきたいと思えます。最後に事例報告会に多数の皆様にご参加頂きまして、本当にありがとうございます。実行委員一同心より感謝申し上げます。

H28年度 事例報告会 に学んで



社会福祉法人 うねび会

理事長 酒井 宏和

今回、本事例報告会に参加し、改めて観察からアセスメント、ケアプラン、アプローチに至る一連のPDCAがどの事例にも徹底して貫かれていることが分かりました。高齢者の方は姿こそ老いてはいますが、希望と夢に溢れた人生で最高のステージにある一人の人間です。アセスメントとチームケア

はそうした高齢者の方の思いに応えるため、新生会が大切にしてきた利用者の自立と尊厳を支えるための手法です。事例報告では丁寧な観察と緻密なアセスメントにより一つ一つのケアに小さくはあるが利用者にとつてはチャレンジングな目標を定め、共に対等な立場で寄り添いながら着実に達成

されている様子が伺えました。常に何故と問いかけ、時にはこれまででのやり方も問い直す、このケアに対する真摯な姿勢こそが利用者や地域の方の自立と尊厳を支えていると確信しました。後半の永年勤続表彰では5年目から30年目までの職員の皆様の誇り高い姿が印象的でした。利用者様や地域の方だけでなく職員の皆様の自立と尊厳も支える、そんな新生会の思いが表れていた事例報告会でした。

▼太田常務理事から表彰を受ける事例報告者



▲今村理事長から永年勤続の表彰を受ける



「しんせい語録」の読み解き

失敗を宝に

サンビレッジ新生苑 事務員

石田陽古

この言葉は、語録の中で私にぴったりの言葉だと思っ
ています。それは6年前、初めて事務員という職に就いた私は、介護保険のことはもちろん、接客・電話対応も未経験で、「はじめのことはわかりました。例えば「共感」するということは、参考書や講義等ではよく耳にしますが、電話対応の際、自分の伝えたい思いが先に走り、相手の声に耳を傾けること、相手の発言の意図を汲み取ることが出来ず相手を不快にさせてしまったこともありました。知っていたことと理解し対応できることの違いを学びました。時には「この仕事に向いていない」「辞めたい」と思い何度か涙したことを憶えています。

しかしそんな「失敗」から共感とは相手の為の言葉であり、主語を常に相手に置きな

から相手の立場で

「聴く」ことを学びました。

そんな私だからこそ、この言葉の重みを実感しているのです。

新しいことに挑戦したら失敗はつきもの。しかし、その失敗は挑戦の証ともいえます。

日々の業務の中にも新しい学びにであえば、躓いて失敗することもあります。その時は、失敗をしたことを後悔するのではなく、原因を分析して次へとつなげ、チームの学びとして宝(糧)にしていける私であり続けたいと思います。



▲本部事務所の仲間たちと「新生苑玄関」の前にて



しんせい語録

最期まで自立と

尊厳のある介護

(株)新生メディカル多治見営業所

望月 綾

自分で選択して入所したグループホームであったが、自宅での生活に戻りたい思いが募りその後、家族との思いも行き違いながら、本人の意思を通して、やつとの思いで自宅へ戻られる。自分で選んだ一人暮らしがスタートした。

しかし自宅に戻ったものの、洗濯機の操作がわからない。番号の書いた紙を順番に貼り付けた。テレビのリモコン操作も同じである。風呂の湯沸かしも毎日2回訪問するヘルパーと根気に取り組んだ。わからずに立ち尽くしてもヘルパーが必ず訪問するという安心感の下で自分も頑張ろうと思われた。本人との会話の中から困りごとをキャッチし、更には興味が湧くことを見つけて出す。次のケアへのヒン

新生グループには日めくりカレンダー「しんせい語録」があります。語録には介護現場で感じたことや学んだことへのヒントが掲載されています。

トとして生活の楽しみ、張り合いに繋ぐ。

色々な花木が植えられた庭、一年間放置され枯れかけた木もあつた。庭に咲いた一輪のバラ、「きれいですね」と声掛けすると、剪定鋏を持ってヘルパーを待たれる姿が見られるようになった。「やはり手を掛けてやらんとなあ」3か月後枯れかけた木から新芽も出た。山積みになされた郵便物が居室のあちこちに、「いっぱい届いたラブレターを片づけているんだよ」自分が選ばれた生活の基盤を支え、本人の思いを大切にしながら「自立と尊厳のある介護」を続けていきたい。



▲自宅でヘルパーを待たれるAさん

vol.15

「サンブレッジの仲間たち」

専門性を伝える責任

木もれび家・もやいの家泉リーダー 安田 健一

グループホームは認知症になっても地域の中でその方らしい強みや役割を持ちながら、家庭的な雰囲気です。生活をして頂くところです。私はリーダーとして、ご家族と日頃の様子や生活の課題についての話し合いをする機会が増え、伝え方の難しさを実感していました。

今は、介護の専門性をどのように伝えていくと良いか。ご家族は何が知りたいのか、試行錯誤しながらご家族の思いを伺っています。

入居者の暮らしを支えるにはご本人の思いを踏まえた介護計画があり、ケアの一つ一つには根拠があります。98歳のAさんは毎年、梅の収穫時期になると梅干し作りに励み、この役割が生きがいへと繋がっています。今年も梅を漬け込むことができるように生活の中で手を動かす食器拭きを日課として取り組まれ、少し身体が不自由になっても机やかめを吟味して出来る環境を整えています。ご家族には結果だけではなく、介護計画に沿って、一つ一つのケアを共有する機会を持ち、何気ない生活にも

専門性があることを丁寧に伝えていくことがケアに対する安心感へ繋がっていくのではないかと思います。今後も専門性を伝えていく責任を持ち、信頼関係の構築に向けて誠意を持って伝えていきたいと思っています。



誕生日のメッセージカードを楽しく読んでいます

トピックス

岐阜シティ・タワー43
9周年記念 市民講座

岐阜シティ・タワー43 9周年記念市民講座が10月13日～19日に開催されました。

今回の市民講座は、全10講座をスタンプラリー形式で実施いたしました。内容は、在宅医師、歯科医師、薬剤師、視能訓練士、司法書士、葬儀会社などの講座があり、最期まで在宅で安心して過ごす秘訣が、学べる企画でした。

参加者数は昨年より増加し、延べ300名以上の方にご参加いただきました。

この市民講座が、多くの参加者の方に「自分のこれからのこと」について考えるきっかけになればと思います。



陽の里まつり開催



10月22日(土)、リハビリセンター白鳥とサンブレッジ国際医療福祉専門学校との共催で陽の里まつりが開催されました。今年はリハビリセンター白鳥が会場でした。天候に恵まれ、地域の方、利用者やそのご家族と多くの方にご来場いただき、大にぎわいでした。

地域の方々によるイベント、模擬店、また池田中学校、池田高校の生徒さんのボランティア参加など、地元で根付いたお祭りになりました。

利用者の車いすを押す学生の姿も多くあり、自ら楽しむことももちろんですが、福祉・リハビリ職としての姿も見ることが出来るお祭りでした。

私達が考える社会貢献

熊本地震被災地に対して今まで行事の際に募りました義援金と、職員の有志から集まりました義援金を法人で検討させて頂き、熊本県内のNPO法人の2ヶ所に送金させて頂きました。何時何処で地震が起きるか予測できませんが、日頃の備え・防災訓練の重要性を感じます。今後も、被災された方々の気持ちに寄り添い、私達に出来る支援、義援金活動は続けていきたいと思っています。宜しくお願い致します。